

## 歴史の足跡

## 北海道医学教育史年表 (7)

札幌市医師会 小竹英夫

## 昭和19年(1944)の続き

3. 30 文部省専門教育局長より「医学関係学校臨時短縮に関する件」なる通達出る。

これは陸海軍医務関係よりの要望で、明年9月卒業生を、3月を以て仮卒業とし、4月より入隊或は陸海軍軍医学校生徒として入校せしめるとの方針を示したものの。

3. 31 臨時附属医専の名称を改め、臨時の2字を削除し、専門部主事も部長と改められる。

4. 一 庁立樺太医専、官立樺太医専となる。

12. 16 北海道庁長官、文部省に庁立女子医専設立を申請。

12. 27 北海道庁立女子医学専門学校設立認可。

前年より昭和20年にかけて、国の内外に官・公・私立医専相次いで設立さる。植民地を除き、内地のみで45校を算す。その内訳、官立21、公立19、私立5。

## 昭和20年(1945)

3. 10 B29、東京を夜間大空襲(この頃より全国主要都市空襲)。

3. 18 国民学校初等科以外の授業を、4月から1カ年停止(国家による教育の放棄)。

4. 1 9月卒業予定の医学教育学生・生徒を、仮卒業として軍医学校に入校せしめる。

4. 1 北海道庁立女子医学専門学校開校(校舎は北星女学校、附属医院は北海道社会保険事業協会札幌病院)。定員120名。

生徒は4月から6月末まで、勤労働員中で登校せず。

7. 1 庁立女子医専、開校式と入学式を行う。

7. 26 ポツダム宣言発表さる。

8. 6 米軍、広島に原子爆弾を投下(死者20数万)。

8. 9 米軍、長崎に原爆投下(死者7万余)。

8. 15 我国ポツダム宣言を受諾、無条件降伏し、第2次世界大戦終了。

敗戦の時点に於て、存在した医学教育機関は、次の如くである。このなかには空襲、原爆投下により校舎の焼失したもの、或は一部被害を受けたものもありで、その災害の状況も表の如く報ぜられていた。

10. 5 米軍8,000、小樽に上陸。ジープを連れて行進、札幌・旭川に進駐。

10. 19 札幌に進駐の米軍、札幌女子医専の校舎(北星女学校)からの3日以内の立退を命ずる。

11. 一 旭川市、樺太医専の道内移転を機に、道庁長官、文部大臣に医専設置に関する陳情書を提出。

12. 一 上記を受け、持永長官は、本道の特殊事情に鑑み、庁立女子医専のほかに、本道奥地に官立医専の設置方を要望。

12. 4 閣議、女子教育刷新要綱を了解(女子大の設立、大学の男女共学制など)。

12. 一 附属医専廃止。在学生の卒業を俟って廃校を決定。樺太医専は北大医専へ移し、21年度より生徒募集を停止。

## 昭和21年(1946)

2. 9 7帝大医学部、6官立医大付属医学専門部、入学者募集停止。在学生の卒業を以て廃校(文部省発学60号)。修業年限4年を1年延長。5年となる。

この文部省令により、北大医専の廃校が決定。

昭和20年敗戦時の医学校（設立主体別、設立地別）

学校種別	内地	外地	小計	学校名（設立認可順）
帝国大学	7	2	9	東京、京都、東北、九州、北海道、大阪、名古屋、(京城、台北)
官立医大	6	0	6	新潟、岡山、千葉、金沢、長崎、熊本
公立医大	1	0	1	京都府立
私立医大	4	1	5	慶応、慈恵、日医大、日大、(満州医大)
医大小計	18	3	21	
官立医専	19	4	23	帝大・官立医大附属医専13校 前橋、青森、松本、東京医歯、徳島、米子、(京城、台北附、旅順、樺太)〈他に歯科医転用1校—東京医歯あり〉
公立医専	20	4	24	鹿児島、(県立) 徳島、岐阜、三重、名古屋市、山口、兵庫、福島、横浜市、大阪市、山梨、山梨女、高知、福岡医歯、京都府医大附、北海道、秋田、奈良、和歌山、広島、(平壤、大邱、咸興、光州)
私立医専	13	4	17	東京女子、東京、帝国女、大阪高等、九州高等、岩手、大阪女子、昭和、順天堂、慶応附、慈恵附、日医大附、日大附 (セブランス連合あらため旭、青島、京城女子、満州大附)〈他に歯科医転用2校—慶応、慈恵)
医専小計 (女子)	52 (12)	12 (1)	64 (13)	注1.カッコ内は外地の医学校。 2.下線は女子医専、満州附専のみ共学。 3.歯科転用の3校は医学校数の総計に数えていない。
総計	70	15	85	

東京帝大醫學部＝木造建築の一部焼失（物療内科及び歯科）。

大阪帝大醫學部並に附属醫専＝木造建築全焼。

名古屋帝大醫學部並に附属醫専＝殆ど全焼。

千葉醫大並に附属醫専＝木造部全焼（基礎科教室）。

長崎醫大並に附属醫専＝全滅。

岡山醫大並に附属醫専＝木造部全焼。

熊本醫大並に附属醫専＝同。

日本醫科大學＝木造部全焼。

日本大學醫學部＝全焼。

慶應醫學部並に附属醫専＝食研を残し他の木造部全焼。

慈恵醫大並に附属醫専＝附属醫院（東京病院）病室全焼。

青森醫専＝焼失。

東京醫學齒學専＝焼失。

前橋醫専＝焼失。

山梨醫専＝全焼。

廣島醫専＝全焼。

徳島醫専＝焼失。

三重醫専＝附属醫院焼失。

和歌山醫専＝附属醫院焼失。

兵庫醫専＝附属醫院一部焼失。

鹿児島醫専＝全焼。

東京醫専＝木造部全焼。

山梨女子醫専＝全焼。

名古屋女子醫専＝講堂焼失。

福岡女子醫専＝校舍全焼。

岐阜女子醫専＝校舍寮舎全焼。

東京女子醫専＝細菌、寄生蟲等の一部教室を残し他の木造部焼失。

帝國女子醫専＝大部分焼失。

日本女子醫専＝等二寮舎焼失。

全国戦災医育機関一覧  
〔日本医事新報〕No.1168号 昭和20・9・15

これを不服として、有志の北大医専、樺太医専の存続運動が続けられた。旭川に医専、医大設立の動きがあった。一時は閣議決定を得たというが、実現しなかった。

3. 一 医専の学年1年延長の学制改革で、この年卒業生なし。

3. 一 次の学校に対し、戦災或は施設不備を

理由に、生徒募集延期となる。

官立米子医専、山梨・奈良・和歌山・広島各県立医専。山梨・福島・秋田・岐阜・京都・高知の各府県立女子医専、北海道庁立女子医専。

3. 17 医師の資質向上と、医育の振興を目的として、医療制度協議会と医学教育審議会設けられる。